

近畿中国局フォレスターNEWS

淡路の林業活性化を図るための現地検討会を開催



由良国有林



中間土場：太平洋セメント敷地

※重点取組地区とは、府県と署等の森林総合監理士(フォレスター)等が連携して、技術的援助やその他の必要な協力を重点的に行うために設定した市町村のことで、こうした市町村への技術的援助等をフォレスター活動といえます。

兵庫森林管理署は、平成29年度に兵庫県洲本市を重点取組地区とし、兵庫県と連携して技術的支援を行っています。

こうした中、1月31日、洲本市の由良国有林で実施中の森林整備事業地(列状間伐)で現地検討会を開催し、兵庫県洲本農林振興事務所、洲本市、南あわじ市、淡路市、神戸水源林整備事務所、(公)兵庫みどり公社、谷口林業(株)、兵庫署から、19名が参加しました。

まず、兵庫署から事業の概要説明を行い、その後、受注業者の(有)杉下木材による高性能林業機械での実演を行い、列状間伐箇所での効率的な森林作業道の路線選定とロングリーチグラップルを活用した木寄集材の生産性向上等について説明しました。参加者は、ロングリーチグラップルの性能等について高い関心を示していました。

続いて民有地の一部を借りている中間土場に移動し、大型トラックによる輸送コストの縮減等について説明の後、中間土場の共同利用について、意見交換をしました。

現地から洲本市役所会議室に移動し、3市、みどり公社、水源林整備事務所、兵庫署で意見交換を行い、相互の事業計画等の情報交換、特に洲本市が事務局となっている共有林の施業方針や周辺の道路の状況、隣接する他機関の事業予定等の情報を共有し、今後も連携を図っていくこととしました。

兵庫署は今後も淡路地区での事業を実施しつつ、兵庫県と連携して洲本市への技術的支援を行うと共に、関係機関との共同出荷等を検討しながら、同地区の林業の活性化、森林整備の推進に向けて取り組めます。

福永区域森林整備推進協定の運営会議を開催(広島県)

近畿中国森林管理局は平成28年度に神石高原町をケーススタディ地区に設定し、広島県、広島北部森林管理署、広島森林管理署の森林総合監理士(フォレスター)等が連携して、同町森林整備計画の実行に向けた支援等に取り組んでいます。(これまでの取組は、平成29年度11月号を参照ください。)

こうした中、ケーススタディ地区の取組として、2月6日、神石郡森林組合と広島北部署は、福永区域森林整備推進協定に基づく運営会議を開催しました。

会議では、森林共同施業団地内の、森林作業道の修繕等の取り扱いについて議論が行われ、使用する場合には、善良な利用に心がけるとともに、協定の内容に沿って取り扱うことについて確認されました。また来年度事業実行にあたっては、双方の事業が確定した時点で、双方の事業に支障が生じないように調整の場を持つなどにより対応していくこととしました。

一方、来年度以降の運営会議の開催時期や内容については、事業実行状況等、連絡調整を図りながら検討することとしました。

広島北部署では、今後も森林整備推進協定に基づく運営会議を開催しつつ円滑な団地運営を行っていきます。



荷掛作業の省力化技術の開発 (和歌山県田辺市)



ロージンググラップル(左)とオペレーター(右)



ロージンググラップル

2月16日、和歌山森林管理署は、田辺市愛賀合(民有林)及び和歌山県林業試験場で開催された、架線集材における荷掛作業の省力化技術の開発(林野庁委託事業:平成29年度林業技術革新プロジェクト、森林作業システム高度化技術開発事業)の現地調査及び意見交換に参加しました。

当日は開発に携わった機械メーカー、素材生産業者、研究機関、林野庁研究指導課等の事業の関係者のほか、県、木材団体、近畿中国森林管理局、和歌山署等計28人の参加がありました。

現地では、開発中のラジコンロージンググラップルに関する説明の後、油圧式集材機との組合せによる架線集材の実演が行われました。今回の実演では、ロージンググラップル及び集材機を1名のオペレーターにより遠隔で操作を行うことにより、省力化とともに荷掛作業及び荷降ろし作業に伴う危険排除の可能性を示すものでした。また、このロージンググラップルは、ホールバックライン(引戻索)の横取により荷掛地点への移動が可能です。

実演の後、開発業者、開発に関わる委員等による意見交換が行われ、操作の習熟期間は、個人差もあるが、スムーズに操作できるようになるまで数日から一週間程度であること、ロージンググラップル本体にカメラをつけて遠隔操作できるよう現在取り組んでいることなどの情報が共有されました。

和歌山署は、今後も民有林における技術開発の取組に積極的に参加していきます。

里山広葉樹林活用・再生プロジェクト

かつて薪炭材等として利用されていた近畿中国地方の広葉樹二次林(里山広葉樹林)は昨今はほとんど使用されず高齢級化し、ナラ枯れ被害を増長する一因にもなっています。一方で、家具や内装に用いられている外国産広葉樹材は、生産国の資源的制約や価格高騰により入手が困難になっています。里山広葉樹材の製材への利用が進めば、これらの課題に効果的に対応することができます。しかし現在は里山広葉樹材の製材利用はほとんど行われておらず、流通もほとんどありません。そこで近畿中国森林管理局では、「里山広葉樹林活用・再生プロジェクト」を始動させました。

平成29年度は、岡山署管内国有林のアカマツ、コナラ、アベマキが優占する76年生の二次林約5haにおいて択伐を行い、生産した素材を市場で販売しました。今後この現場において技術開発試験を実施するとともに、近隣の二次林での小面積の伐採を5年程度継続し、少量ながらも里山広葉樹材の供給を続けます。

また3月23日には、滋賀県東近江市で広葉樹活用プロジェクトに取り組む森林総合研究所関西支所との共催により、各プロジェクトの関係者のほか木材業界、自治体、研究機関等から76名が参加して「里山広葉樹活用シンポジウム」が開催されました。シンポジウムでは、里山広葉樹のバリューチェーンを構築するため、川上から川下にわたる情報交換を行うことの重要性が共有されました。

このプロジェクトが呼び水となり、民有林からも広葉樹材が継続的に供給され、川中・川下でも加工・流通のフローが形成されることにより持続的な広葉樹加工産業が形成されることが、このプロジェクトの上位目標となっています。



76年生の里山広葉樹林 (岡山県新見市 釜谷国有林)



里山広葉樹活用シンポジウム (近畿中国森林管理局)

林野庁

近畿中国森林管理局

技術普及課



国民の森林・国有林

TEL : 06-6881-3524 FAX : 06-6881-2055

URL : <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目8-75

編集後記

平成26年度8月号(NO.4)から今号(No.41)までフォレスターNEWSの発行を技術普及課の倉石が担当しました。フォレスター活動をうまく表すことができていたでしょうか?これまでの皆様のご協力有難うございました。4月1日付人事異動がありますので、今後の発行を後任者にお願いしたいと思います。